

査のシビアさの間には落差が大きいと、支援・相談・医療のリソースを充実することに努めた。

要確認検査や陽性とわかる人のために、地域に存在する支援サービスとの積極的な連携によりサポートを充実させた。準備したサポートには、陽性者向けの電話相談との連携による検査会のための臨時電話相談実施、採血および結果通知会場に相談員待機、陽性結果通知場面にカウンセラーやソーシャルワーカー待機、陽性者向けサービスの資材配布、PLuS+に出展するサポート関連ブースとの連携などが含まれた。なお陽性とわかる人に紹介する医療機関についても初診時の手続きを含めた情報を収集するとともに紹介させてもらうことを伝えた。

イベント会場の場で要確認検査結果を受け取ることは受検者にとって心理的負担があるということが危惧されたため、結果通知会場をイベント会場の近隣の別会場に設置した。これにより、要確認検査結果を受け取った人の中でイベント会場に戻りたくない人にとっての選択肢を設けることができた。

匿名性の保持のため、受検者には受検番号を発行し、その番号にてすべての行程を実施した。HIV陽性結果の場合も名前や連絡先は一切得ず、紹介状は受検番号にて記載し、受診回答書も同番号での返信を医療機関に依頼した。本人の受診時期や受診医療機関についての決定を尊重し病院への同行はしないこととした。

事業評価のため、受検者数・結果受取数・陽性結果数等を把握すること、また医療機関へ受診回答書の返信を依頼し、陽性とわかった人の受診率を把握することとした。受検者には任意記入の感想アンケートへの協力を依頼した。

実施の結果、受検希望者 214 人、リスクスクリーニング後の受検希望者 172 人、最終的な受検者 169 人（途中キャンセル 3 人）とな

った。169 人全員が結果を受け取った。そのうち要確認検査結果を受け取った 6 人の全員が翌日の確認検査結果を受け取り、全員が陽性結果であった。この 6 人は全て同性間の性的接触経験のある男性であった。この 6 人には HIV の専門治療病院を紹介し、全ての方が受診したことを確認した。

169 人の受検者のうち 147 人が同性間の性的接触経験のある男性であった。この中で 6 人が HIV 陽性と判定されたことから、同性間の性的接触経験のある男性の約 25 人に 1 人が HIV 陽性であったという結果となった。さらに、関西地域在住者に絞ってみた場合、約 20 人に 1 人の割合であった。

3) 相談体制の整備

阪神圏では MSM を対象にしたエイズ相談機関が限られており、特に HIV 陽性者に対応した電話相談体制が脆弱な環境にあった。このことから本研究では東京で実績のある特定非営利活動法人ふれいす東京に電話相談体制構築について委託し、岳中美江（財団法人エイズ予防財団/特定非営利活動法人 CHARM）を中心とした陽性者支援のための体制「陽性者サポートプロジェクト関西 (POSP)」を組織した。

POSP は、関西で生活する HIV 陽性とわかった人たちが日常のこと、医療のことなどについて、いつでも相談でき、安心してサポートを利用できる環境を整備することを目標にして活動した。戦略研究期間中に、MSM を含む陽性者が必要とする相談サービスなどを立ち上げることや、陽性者が生活する地域の支援環境を向上することを目指した。関西地域において優先的に必要なサービス、かつ地域で継続可能なプログラムを立ち上げることとし、まずは陽性者の利用しやすいサポートの窓口として、電話相談の設立をすることとした。

また、陽性判明直後の支援が非常に大事であること、対面での支援が可能なプログラム

が電話相談からつなぐリソースとしても必要であることから、判明後間もない人を対象としたグループプログラムの立ち上げに着手することとした。

地域の支援環境向上については、自治体と連携しながら、陽性とわかる人および地域に生活する陽性者に接する可能性のある保健師等の研修や支援者のネットワーク構築、陽性結果通知用の資材作成に取り組むこととした。

3)-① HIV 陽性とわかった人のための電話相談【POSP 電話相談（陽性者サポートライン 関西）】

電話相談は、HIV 陽性者への直接支援をすること、および相談者から得た情報を地域環境向上に役立てることを目的とした。具体的には、①話しにくい・話す場所がない・どこに話したらよいかわからない人に相談機会を提供する、②利用者の状況をアセスメントして、気持ちと環境部分を整理する、③情報提供を行い、選択肢の幅を広げて本人の選択を支援する、④受診を支援する、⑤医療や行政対応についての不満等を聞く、⑥検査環境についての利用者評価情報の収集をすることとした。毎週水曜日 19 時から 21 時に相談を実施した。

<第 1 段階 立ち上げ・開始期>

電話相談の立ち上げについて、2007 年から陽性者サポートプロジェクト関西（POSP）の運営会議にて検討を重ねて、方針や対象者を決定した。限られた日時の実施であるため、開設にあたって対象者を優先度の高い HIV 陽性とわかって間もない人にしぼった。名称は「陽性者サポートライン関西」とした。2007 年 10 月から相談員 2 人体制で相談を開始した。

2007 年 10 月～2009 年 10 月の相談件数は 67 件であった。その内訳は、陽性者本人 46 件、スクリーニング陽性の本人 3 件、パートナー・配偶者 2 件、親・子 1 件、友人 1 件、その他（感染不安等）14 件であった。

<第 2 段階 対象者の見直し・定着期>

2009 年 6 月に対象者などの見直しを行なった。その結果、7 月から HIV 陽性者全般およびパートナーや家族などの周囲の人でどこに相談したらよいかわからない人も対象とすることとした。また、ひよっこクラブの設立にともなうウェブサイトのリニューアルを機に、名称を「POSP 電話相談」に変更した。10 月に対象および名称の変更についての周知を開始した。

2010 年 10 月に PLuS+ FINAL に合わせて実施された HIV 迅速検査会 MaQ において、要確認検査を受け取る人および陽性結果を受け取る人向けに臨時電話相談を当日と翌週（計 6 日）に実施した。

2009 年 11 月～2011 年 3 月の相談件数は 46 件であった。その内訳は、陽性者本人 12 件、スクリーニング陽性の本人 6 件、パートナー・配偶者 4 件、親・子 2 件、友人 0 件、その他（感染不安等）22 件であった。

（相談員養成）

安定した電話相談運営には不可欠である相談員増員のため、2008 年 9 月から相談員の研修を開始した。試行段階を経て、オンジョブ研修システムを構築した。また、相談員と兼任ではあるが、プログラムのコーディネーターと、主に研修を担当するスーパーバイザーを役割分担して置くこととした。研修者が電話相談員になるまでの流れは、①コーディネーターによるオリエンテーションを受ける、②ケースカンファレンスに参加する、③実際の電話相談対応を見学するとともに、スーパーバイザーとロールプレイをする、④スーパーバイザー同席のもと電話相談に対応する、⑤スーパーバイザーおよびコーディネーターと本人の判断により相談員となる、というものである。

これまでは HIV 関連の対人援助の経験がある人をリクルートして研修を実施しており、計 4 人が研修に参加した。2009 年 11 月に 1 人（研修期間 14 ヶ月）、2010 年 3 月に 1 人（研

修期間 17 ヶ月)、2011 年 2 月に 1 人 (研修期間 13 ヶ月) が研修を修了し、現在では 5 人の相談員体制で運営している。

相談員 (研修者) の増員にともない、2009 年 4 月からケースカンファレンスを月に一度開催することとした。相談員と研修者全員が集まり、毎月の相談ケースの共有と電話相談運営について検討する会とし、毎月第一火曜日に実施した。

<第 3 段階 今後へ向けて>

電話相談を開設した 2007 年 10 月から 2011 年 3 月までの相談件数合計は 113 件となった。陽性者本人の相談に多く含まれた内容は、周囲の人への告知について、仕事や学業、病気の見通し、医療費、身体障害者手帳、病院選択、他の陽性者の様子、服薬、セックスライフ等であった。

スクリーニング検査結果が陽性で確認検査結果前の人からの相談では、今後の見通し、寿命の心配、医療費の心配について多く相談された。

陽性者本人からの相談数は増えてはいない。一方で感染不安の相談や関西地域以外からの相談は増えている傾向がある。陽性者の電話相談数が増えていない理由として、HIV 陽性と知る場面および初診時において、丁寧なケアが行き届いてきており、判明直後に特有の心配が軽減されている可能性や、周囲の人やインターネットにより自ら情報を得ることができる環境になってきていることが考えられる。

一方で、インターネットを利用せず情報を得にくい、相談できる人がいない等、相談機会を十分に得ていない層の存在もあることが推測される。また、長期的に HIV とつきあう中で、医療機関へ行く頻度は少なくなること、また医療的には安定している場合などは、医療機関では相談しにくいことも考えられる。このような層へ、電話相談の存在をわかりやすく周知する必要がある。

また、陽性者のパートナーや家族など周囲の身近な人にとっては、陽性者以上に相談できる場所が不足していることから、当電話相談は周囲の人にも利用できることも合わせて、必要な人に届くように周知していくことが重要である。

なお、人材等の限界から、週に 1 度、2 時間の相談を実施してきたが、思い立ったときにいつでも相談できるような体制をつくることで、必要な人がより利用しやすくなるであろう。そのためには相談員の研修を継続することで日時の拡大を検討することが必要である。

3)-②HIV 陽性とわかって間もない人のためのグループミーティング「ひよっこクラブ」

ひよっこクラブは、HIV 陽性とわかって間もない時期によりよいスタートを切るための支援を目的としており、陽性者を含む 2 人のスタッフが進行を手伝いながら実施する全 3 回の少人数制グループミーティングである。2 回目には医師による医療情報セッションを含めている。1 年に 3~4 期の実施を目指した。HIV 陽性判明から半年以内の人を主な対象としており、参加者を募って実施している。

新しいプログラムであるため、開始から間もない時期の参加者募集については、医療機関からの紹介が必要であると考えた。関西地域の主要な拠点病院のナースやソーシャルワーカー、および派遣カウンセラー等に、参加対象者についての説明を行い、参加対象者に対して事前の説明や参加条件の確認をするインテイクの実施を依頼した。これら紹介者によるインテイクを受けた参加希望者は、ひよっこクラブコーディネーターによるオリエンテーションを受けた上でプログラムに参加する流れとした。フライヤーやウェブサイトを見て、直接ひよっこクラブ事務局に申し込みをしてきた参加希望者は、コーディネーターによるインテイクとオリエンテーションを経

てプログラムに参加する流れとした。

スタッフ構成は、陽性者スタッフ（ピアサポーター）、対人援助等の専門職スタッフ（スタッフサポーター）、医師のスタッフ（メディカルサポーター）、コーディネーターである。毎期後に実施する振り返りミーティングには、これらのスタッフに加え、PGMのコーディネーター（アドバイザー）とサポーター候補者も参加している。

<第1段階 立ち上げ準備期>

ぶれいす東京の新陽性者 Peer Group Meeting (PGM) コーディネーターの協力を得て、2008年9月から新陽性者向けのグループミーティング立ち上げの準備を開始した。陽性者と専門職からなる準備検討会を開催するとともに、準備に関わる関西メンバーが交代でPGMのスタッフ振り返り会に参加した。PGMのプログラムを参考に、関西地域に適したプログラムを構築した。また、スタッフのリクルートも行なった。

<第2段階 開始期>

2009年8月～9月に第1期を実施した。参加申し込みは7人（紹介者経由6人、直接申し込み1人）で、参加者は6人であった。第2期を2010年1月～2月に実施した。参加申し込みは5人（紹介者経由3人、直接申し込み2人）で、参加者は5人であった。いずれの開催期も、参加者は全回参加した。

<第3段階 定着期>

第3期はもともと2010年4月の開催を予定しており、紹介者経由の申し込みが6人あったが、オリエンテーションにいららず6月～7月に実施することとして改めて参加者を募集した。6人の参加申し込みがあり（紹介者経由5人、直接申し込み1人）、2人はオリエンテーションにいららず、4人が参加した。そのうち1人は1回目だけの参加であった。

第4期は2010年10月に実施した。参加申し込みは7人（紹介者経由3人、直接申し込み4人）で、そのうち3人はオリエンテーシ

ョンにいららず、1人はオリエンテーションにて次期の参加を希望した。1人は全回欠席で、参加者は2人であった。

第5期は2011年2月～3月に実施した。第4期までは日曜日昼間の開催をしていたが、初めて土曜日夜間に開催した。新たな参加申し込みは10人（紹介者経由6人、直接申し込み4人）で、1人はオリエンテーションにいらなかった。オリエンテーションを実施した人のうち4人は定員オーバーのため、次期への参加をお願いした。1人は全回欠席で、参加者は5人であった。

参加申し込み数が大幅に定員を超えたため、第6期を開催することとし、3月～4月に実施した。新たな参加申し込みは4人（紹介者経由1人、直接申し込み3人）で、1人はオリエンテーションにいらなかった。オリエンテーションを実施した人のうち1人は定員オーバーのため、次期への参加をお願いした。参加者は6人で、全員が全回参加した。

開始期に比べて、徐々に直接申し込み数が増えている。また、クリニック検査で陽性が判明し、フライヤーをそこでもらったことで、プログラムの存在を知った人も増え、HIV迅速検査会 MaQ や PLuS+のブースで知った人もいた。

毎期終了後に実施する振り返りミーティングに加えて、サポーター候補者のための会も開催し、プログラム継続には必然であるスタッフ育成にも努めている。

3)-③ プログラムの広報

2007年11月に電話相談のウェブサイトをPCと携帯ともにアップした。その後、ひよっこクラブの開始にともない、広報チームを立ち上げてサイトのリニューアルを検討し、2010年4月～5月にリニューアルしたサイトをアップした。支援サービスを必要とする人にとって、探しやすい周知をすることが重要であると考えてイメージづくりなどの工夫を

した。

電話相談やひよっこクラブについて、陽性者に情報が届くように、近畿全域の拠点病院や保健所・保健センター等にフライヤーなどの資材を配布してきた。

また、大阪府立公衆衛生研究所の川畑拓也さんと MASH 大阪が協働で担当してきたクリニック検査キャンペーンにおいて、HIV 陽性確認検査結果とともにフライヤーを医療者から本人に渡してもらうことで、HIV 陽性とわかった時に情報を得やすい環境ができてきている。

同時に、HIV 検査に行く前や HIV 陽性とわかる前の段階で、陽性者のための支援サービスが関西にも存在することを知っておいてもらうことも大切であるため、MASH 大阪との協働で広報をしてきた。MASH 大阪がアウトリーチをしている MSM 向け商業施設へフライヤーが配布された。また、MASH 大阪が発行しているコミュニティペーパーに電話相談の情報が毎回掲載され、POSP の実施するサービスについての特集記事も組まれた。MASH 大阪がミドルエイジプロジェクトとして発行した冊子へ支援サービスについての執筆協力も行った。毎年 MASH 大阪主催で開催されてきた PLuS+ においても、陽性者向けの支援サービスの周知を目指して、follow や CHARM と共同でブースを出展した。

3)-④ 地域支援者のカンファレンス等

関西地域で陽性者にかかわる人たち向けに、職種や職場を越えて意見交換をしたり、課題を共有したりするための場を設けた。電話相談によせられた陽性者の声を共有する場ともなった。

<平成 19 年度>

電話相談で得られた情報を共有する場、また支援にかかわる人たちの意見交換の場を設ける試みを行った。

●2008 年 2 月 3 日【活動報告会】

近畿圏内の保健行政、HIV 診療拠点病院、検査相談機関、検査を実施しているクリニック、関西 HIV 臨床カンファレンス、NPO 等に案内。

当プロジェクトの活動内容の紹介を主な内容とし、報告や意見交換の機会とした。

関西の発生動向と戦略研究について(市川誠一/名古屋市立大学)、新規陽性者の相談を受ける中で見えること(生島嗣/ぶれいす東京)、HIV 検査はゴールなのかスタートなのか(矢島嵩/ぶれいす東京)、関西の拠点病院の現状(岡本学/大阪医療センター)、陽性者サポートライン関西の実践報告(岳中美江/陽性者サポートプロジェクト関西)

参加者 91 人、発表 5 人、スタッフ 2 人。

●2008 年 2 月 24 日【ワークショップ】

地域で活動する個人 29 名に案内。

HIV にかかわる様々な立場の方にそれぞれの立場から発言頂き、お互いの意見を聞きあう場として開催した。

参加者 21 人、スタッフ 7 人。

<平成 20 年度>

関西における検査環境改善、地域の支援者ネットワークの構築、また日常の検査相談や陽性者支援の実践に役立てるための会を陽性者支援経験がある方やその立場にある方を主な対象として開催した。相談や活動の事例紹介とグループワークを行った。

●2008 年 5 月 18 日【ケースカンファレンス】

近畿圏内の保健行政、拠点病院、NPO、連絡希望をした個人に案内。

陽性者サポートライン関西の事例紹介、グループでの意見交換・検討を行なった。

参加者 15 人(保健師 9、心理職 4、SW2)、発表者 1 人(岳中美江/陽性者サポートプロジェクト関西)、スタッフ 5 人(グループファシリテーター 3、他 2)、オブザーバー 1 人。

●2008 年 7 月 27 日【ケースカンファレンス】

近畿圏内の保健行政、拠点病院、NPO、連絡希望をした個人に案内。

陽性者相互の支援活動をしている follow より活動内容や陽性者の現状について話題提供、グループでの意見交換・検討を行なった。

参加者 30 人（保健師 17、心理職 4、SW2、医師 3、看護師 1、NP02、その他 1）、発表者 2 人（follow）、スタッフ 9 人（グループファシリテーター 6、他 3）。

●2008 年 10 月 26 日【ケースカンファレンス】

近畿圏内の保健行政、拠点病院、NPO、連絡希望をした個人に案内。

大阪市北区保健福祉センターの保健師に検査サービスを提供する立場から話題提供、グループでの意見交換・検討を行なった。

参加者 29 人（保健師 19、心理職 1、SW1、看護師 3、NP05）、発表者 1 人（松本恵子/大阪市北区保健福祉センター保健師）、スタッフ 8 人（グループファシリテーター 6、他 2）、オブザーバー 1 人。

<平成 21 年度>

関西における検査環境改善、地域の支援者ネットワークの構築、また日常の検査相談や陽性者支援の実践に役立てるための会を陽性者支援経験がある方やその立場にある方を主な対象として開催した。ケースカンファレンスからテーマを決めたミニシンポジウム形式に変更し、発表時間と交流時間を設けた。

●2009 年 8 月 20 日【カンファレンス「地域の支援者ネットワークを広げよう」】

近畿圏内の保健行政、拠点病院、NPO、連絡希望をした個人に案内。

陽性者サポートプロジェクト関西から電話相談の報告、大阪府から府の診療体制について、大阪市から市の検査相談体制について発表。参加者同士の情報交換や交流を行なった。

参加者 31 人（保健師 12、SW2、医師 3、看護師 7、薬剤師 1、NP06）、発表 3 人（岳中美江/陽性者サポートプロジェクト関西、酒井典子/大阪府感染症グループ、有馬和代/大阪市保健所）、スタッフ 2 人、オブザーバー 2 人。

●2009 年 11 月 3 日【カンファレンス「HIV

陽性者支援における保健師の役割】

近畿圏内の保健行政、拠点病院、NPO、連絡希望をした個人に案内。

大木幸子さんより「保健所における HIV 陽性者への相談・支援機能に関する研究」の報告、参加者それぞれの立場から現在の活動状況や今後についての意見交換を行なった。

参加者 10 人（保健師 6、SW1、看護師 2、NP01）、発表者 1 人（大木幸子/杏林大学）、スタッフ 4 人。

<平成 22 年度>

地域の陽性者の支援者ネットワーク構築を目的に開催してきた会は、これまでに多様な立場で陽性者に関わる人たちが参加し、情報交換やネットワーク構築の場として必要性が認識されたため、地域の他機関が主体となった継続を期待し、本年度は陽性者サポートプロジェクト関西主催では実施しないことに決定した。その結果、年に一度 NPO の活動報告・交流会を主催している関西 HIV 臨床カンファレンスが、支援者のネットワーク構築の機会という主旨も組み込んで、今後当報告・交流会を臨床カンファレンス会員以外にも案内を拡大して開催することが決定した。2011 年 1 月に開催された。

3)-⑤ その他地域の支援環境向上のための活動

【陽性者向け冊子「たんぼぼ」制作協力】

どこで HIV 陽性とわかって、包括的な情報を提供し、必要な場合に相談先を見つけやすくするために、大阪府内で共通して使用できる陽性者向け冊子の発行について自治体に働きかけをした。東京都が発行している冊子「たんぼぼ」を、大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市が合同で発行することが決定し、編集会議に協力した。関西版「たんぼぼ」は 2011 年 3 月に発行された。

【大阪市保健師研修への協力】

2008年度から3年間、1日分の研修プログラム企画と実施を担当した。HIV相談の実際について、ロールプレイを主に行うプログラムを企画して実施した。ロールプレイにて、利用者役を地域で活動するゲイ男性等に協力をしてもらい、保健師により現実的な相談場面を体験してもらおう試みをした。2年間は、POSP主体で企画・実施をしたが、3年目の2010年度は、保健所保健師がプログラムを主体的に組み、進行も担当して、POSPはロールプレイ実施の協力という形式とすることができた。

【大阪市保健師自主勉強会への協力】

2008年度から、大阪市保健所が大阪市保健師の希望者を募って実施する勉強会の企画・実施に岳中美江がスーパーバイザーとして協力した。2008年度は「HIV/AIDSの勉強会」として、医療、検査相談、陽性者理解、性行動などの基礎について、全7回の勉強会が実施された。勉強会を通して、検査前情報提供をするための媒体の見直しをすることも実践された。2009年度は「地域でHIV陽性者を支えるための保健師の役割」として、医療情報や事例なども交えながら、全3回の勉強会が実施された。高齢者や障害者、包括支援センター等の保健師にも勉強会の案内がされ、多様な保健師が集まった。2010年度は「地域に暮らすHIV陽性者/AIDS患者の療養支援について一緒に学びましょう」として、大阪市の現状、医療情報、性行動、MSMについて、陽性者の現状、療養支援における保健師の役割などについて全5回の勉強会が実施された。

D. まとめ

1) HIV検査受検行動を促進するための啓発資料・プログラムの開発と普及

2008年に実施された市川調査により、近畿圏在住のMSM人口は約108,000人と推定されている。一方2007～2008年にMASH大阪が実施した調査によると、大阪地区ゲイタウンを

利用するMSMは約33,000人であった。したがって本研究事業はMSM向け商業施設利用層（約33,000人）および非利用層（およそ前者の2倍の人口規模と想定される）という2種類のクライアントに向けて戦略的に受検行動促進啓発を働きかけるものとして計画され、実施された。

商業施設利用層のうち、クラブ利用者に対する受検行動促進啓発プログラム【ナイトプロジェクト】では、期間中、のべ49のイベントにおいて、映像/音響資料、コンドームキット（場合に応じてコンドーム&資料パック）計12,580個、フライヤー10,300部、その他のノベルティグッズ12,460個が提供され、主に若年層MSMに対して受検促進のメッセージが配信された。次にハッテン場利用層に対しては【HATTEN+】が実施され、期間中、24の施設に3種168部のポスターを、16施設に118,800個のコンドーム&資料パックが配布された。また、ハッテン場オーナーおよび従業員とのネットワーク構築が飛躍的に進んだ。一方、商業施設を利用しない層を含め地域のMSM全体に向けてのプログラムとしては、【スライドショープロジェクト】、【PLuS+】、【WEBプロジェクト】および【クリニック検査キャンペーン】の4つが実施された。まず一般街頭における受検行動促進啓発プログラム（【スライドショープロジェクト】）においては、期間中、8会場において約9,400人の観客に向けスライドショーを上映した。会場はすべて公共空間であり、通りがかりの人々を含め、ゲイ向け商業施設を利用しないMSM層への発信が可能となった。次に大型イベントによる受検行動促進啓発プログラム【PLuS+】を開催することにより、期間中、大阪市北区扇町公園を舞台にのべ約14,500人のMSMに向けて受検行動促進のメッセージが配信された。またインターネットを利用した受検行動促進啓発プログラム【WEBプロジェクト】においては、運営した4つの

サイトに対して 2010 年にアクセスしたセッションは 109,411 件であり、このうち、【クリニック検査キャンペーン】関連情報を含むサイト【dista.b】には 58,328 件のセッションがあった。このことはのべ約 58,000 人の閲覧者に向けて受検促進のメッセージが配信されたことを意味している。

最後に、商業施設利用層、非利用層を問わず、中高年 MSM を対象とした受検行動促進啓発プログラム【ミドルエイジプロジェクト】を実施したことにより、まず 45 歳を境目として MSM 層内に情報格差が見られ、45 歳以上の年齢層においては予防知識・行動、受検行動が低いことが明らかになった。これをふまえて、商業施設のオーナー・従業員向けに「ミドルエイジ向けセクシュアルヘルス・ガイドブック」を作成し配布したところ、新たに 14 軒の施設が受け取りを承諾し、また「顧客から相談をうけたときに活用している」など、好意的な反応が寄せられた。

2) HIV 検査体制の整備と拡大

キャンペーンにおいて一定数の受検者が確保でき、MSM の受検機会の拡大とクリニックの周知という目的は達せられた。保健所の HIV 検査に比べ、高い陽性率を示したことも重要であり、3 年間で約 30 名の HIV 陽性者を医療に繋ぐことが出来た。一方金銭的な面では、今後同様の手法を導入するのに課題が多いことが明らかとなった。

HIV 迅速検査会【MaQ】については、最終的に 169 人が受検したが、その多くは当日に検査会を知った人であった。このことは「人のいる場所へ出向く」検査相談が機能したことを物語っている。次に、受検者全員が結果を受け取ったことは、イベントでの確認検査結果を翌日に返す迅速検査が機能したことを示唆している。陽性率は全受検者の 3.6%、MSM 受検者の 4.1%、関西居住 MSM 受検者の 5.1% であったが、このことは、MSM 受検者の 70%

がこれまで、もしくは過去 1 年間に受検していない人であったことと合わせて、HIV 感染の可能性の高い状況にありながら、わざわざ HIV 検査には行かない層に対して受検機会を提供できたことを物語っている。事前広報をしなかったこと、リスクスクリーニングを導入したことがある程度機能したと考えられる。

上記から、HIV 迅速検査会【MaQ】は、高い感染リスクの状態にありながら受検行動につながりにくい MSM 層に向けた臨時迅速検査として、一つのモデルを提供できたといえる。

3) 相談体制の整備

エイズ発症して報告される数を減らすためには、検査の普及とともに、陽性とわかる人のための支援サービスが不可欠であることから、戦略研究の一環としてこの相談支援体制の整備に取り組むプロジェクトが組織された。

以前から地域に必要であった電話相談や陽性とわかって間もない時期の支援プログラムを、戦略研究を機に立ち上げることができた。それにより、これまでに関西に存在した陽性者向けのサービスに加えて、陽性者が選択できる相談支援サービスの数や種類が増えた。

陽性者や周囲の人が生活する地域に相談サービスが充実することにより、検査を受けやすくなる、検査を提供しやすくなる、および検査を勧めやすくなることにつながるものが、MASH 大阪やクリニック検査キャンペーンとの連携の中でより明らかになった。

顔の見えた横のつながりが、自治体や保健所と医療機関、自治体や保健所と NPO、医療機関と NPO、NPO と NPO 等のできるにより、支援にかかわる人が活動しやすくなるだけでなく、支援を必要とする人にとっての環境向上につながる。戦略研究を通して強くなった地域間および地域内のネットワークは、関西地域にとって大事な成果である。

4) 総括

受検行動を促進するための啓発資材・プログラムの開発と普及に関しては、商業施設利用層、非利用層の双方に向けて集中的に働きかけるプログラムが計7つ計画され、実施された。前述のごとくプログラムにより多少の凹凸はあるものの、限られた予算と人員のもとで最大限のアウトプットが得られた。これらのアウトプットがどのようなアウトカム（成果）をもたらしたのかは、今後のデータ分析を待たなければならないが、【HATTEN+】【PLuS+】【WEB プロジェクト】など、商業施設利用層・非利用層を問わず広く地域の MSM に向けた大規模な普及啓発事業が展開できたことには大きな意味がある。特に【PLuS+】と【WEB プロジェクト】は期間中に地域にすっかり定着したプログラムとなっており、今後どう展開していくかが大きな課題となっている。また45歳以上の中高年 MSM に向けた普及啓発事業の端緒が開かれたことも有意義であった。

HIV 検査体制の整備と拡大については、めざましい成果が得られた。【クリニック検査キャンペーン】は、多くの陽性者を掘り起こしただけでなく、既存の医療機関に対する MSM のアクセスを大幅に向上させた点で画期的な意味をもつ。また迅速検査会【MaQ】は、かつて MASH 大阪が実施した臨時検査イベント【SWITCH】（2000～2002年）と同様、迅速検査の一モデルを構築した。

相談体制の整備の面でも、めざましい成果が見られた。陽性者を支援する複数のプログラムが立ち上がり、支援の質が大幅に向上したことは間違いない。幸い、これらのプログラムは NPO CHARM によって引き継がれることが決まっており、その端緒を開いたという意味でも本研究の成果といえる。

最後に、数字には表れない成果として、戦略研究に参画したすべての NGO/NPO、研究者、自治体と保健所、医療機関のあいだに

「顔の見える横のつながり」が形成されたことがあげられる。戦略研究を通して構築された地域内のネットワーク、地域を超えたネットワークは、今後、当該地域のエイズ対策を展開するうえで大きな財産となることは間違いない。

厚生労働省科学研究費補助金 エイズ対策研究事業
エイズ予防のための戦略研究 総合研究報告書

課題 1

首都圏および阪神圏の男性同性愛者を対象とした

HIV 抗体検査の普及強化プログラムの有効性に関する地域介入研究

RDS (Respondent Driven Sampling) 法を用いた携帯電話と情報端末による首都圏および阪神圏の男性同性愛者 (MSM) を対象とした質問紙調査 - 2007 年-2010 年の結果報告

研究リーダー：市川誠一（名古屋市立大学看護学部）

研究協力者：金子典代（名古屋市立大学看護学部）、塩野徳史、ジェーンコナー（名古屋市立大学看護学部／財団法人エイズ予防財団）、佐藤未光（RainbowRing）、荒木順子、張由紀夫、（RainbowRing／財団法人エイズ予防財団）、生島嗣（ふれいす東京）、岩橋恒太、砂川秀樹（ふれいす東京／財団法人エイズ予防財団）、鬼塚哲郎（京都産業大学）、内田優、町登志雄（MASH 大阪）、辻宏幸、後藤大輔（MASH 大阪／財団法人エイズ予防財団）

研究要旨

エイズ予防のための戦略研究課題 1 における首都圏、阪神圏における啓発介入プログラムのゲイコミュニティ内での浸透度を評価することを目的とし、イベントやサークル参加者、商業施設利用者を対象に 2007 年から 2010 年にかけて首都圏、阪神圏にて各 3 回の RDS 法による携帯電話調査を実施した。

首都圏では 2008 年から 2010 年にかけてサークルやイベント参加者、Living Together 計画の関係者に対して RDS 調査を計 3 回実施した。サークル系としては、文化系サークル、体育会サークル参加者から協力を得た。また、Living Together 計画（主に新宿二丁目にて行ってきた HIV をめぐる現状についてのメッセージを広げるイベントや広報）の参加者、関係者に参加を依頼し回答を得た。全てのベニューを総計すると、2008 年は総計 361 件、2009 年は 463 件、2010 年は 293 件の回答を得た。配布ベニュー別に介入の認知、検査受検行動等について経年比較を行ったところ、すべての群において、啓発資材や HIV マップ、あんしん検査サーチなどのプログラムの認知は、経年的な上昇が認められた。

阪神圏では、大型啓発イベント PluS+の会場、京阪神のバーにて回答を依頼し、2007 年から 2009 年にかけて毎年 10 月から 12 月に実施し、総計 1249 件の有効回答を得た。全体では、阪神圏で実施したクリニック検査キャンペーンの広報資材について認知は経年的に上昇していた。生涯の検査受検経験についても 58.0%から 68.2%へ上昇がみられた。年齢階級別に分析すると、特に 29 歳以下の層、40 歳以上の層で生涯での HIV 抗体検査受検経験割合の上昇が確認された。また過去 1 年の受検経験も 32.4%から 37.3%まで上昇がみられた。PluS+会場から紹介を広げた群と京都・神戸・姫路地域のバー顧客を起点とし回答を広げた群の 2 群間で経年比較を行ったところ、戦略研究にて開発した資材のロゴ、阪神圏で実施したクリニック検査キャンペーン資材の認知は経年的に上昇していた。

本報告で用いられた調査結果は一部であり、今後、首都圏については対象者を起点となる第 1 層、1 層から紹介を受けた 2 層以降の群に分けたうえで、介入の浸透度の比較を実施すること、

介入の接触と検査行動の関連を層別に見るなど詳細な分析を行う必要がある。京阪神においても、クリニック検査キャンペーンの認知は経年的な上昇がみられ、生涯の検査受検行動についても一部で経年的な上昇が確認された。今後は介入の接触の程度と検査受検の関連を明らかにし、介入の効果評価に資する分析を進める必要がある。

A. 研究目的

首都圏と阪神圏のサークル参加者、イベント参加者、LT 計画の参加者、ゲイ向け商業施設を利用する MSM (Men who have sex with men) を対象者として RDS 法による質問紙調査を実施し、各地域の MSM における介入プログラムの浸透度、検査受検行動の推移を把握することを目的とした。

B. 研究方法

首都圏については、エイズ予防のための戦略研究において MSM 首都圏グループが啓発資材を、アウトリーチによって配布しているスポーツ系サークル、文化系サークル、新宿二丁目を実施してきているプログラムである LT 計画関係者に 2008 年から 2010 年にかけて毎年調査協力を依頼した。本調査のコンセプトとして、「HIV/エイズをめぐる、ちょっと面倒な、けど大切な調査キャンペーンが始まります。MEN-DO キャンペーン『携帯電話アンケート』が始まります」という紹介文を作成して用いた。2008 年度は 361 件、2009 年度は 463 件、2010 年度は 293 件の首都圏に在住する MSM からの有効回答を得た。

阪神圏では、2007 年から 2009 年にかけて毎年 10 月 - 12 月にかけて、毎年大型啓発イベント Plus+ の会場と京阪神のバー顧客を起点として回答を依頼し、総計 1249 件の阪神圏に在住する MSM からの有効回答を得た。

本調査は RDS 法を用いており、まず特定のベニューにて直接対象者に携帯電話から調査サイトにアクセスし回答を依頼し、回答した者は任意に対象者に紹介メールを送り、対象者層を拡大させていく方式 (図 1) を用いた。本研究では首都圏の LT 計画の群において最大 5 層ま

で層が拡張した。対象者には謝礼として電子メールで配信が可能なショッピング用のクーポンを送付する仕組みとした。

質問紙構成は基本属性、予防介入プログラムの接触と認知、HIV 検査受検行動、性行為経験およびコンドーム使用行動、HIV の予防に関する規範 (HIV エイズに関する対話経験、陽性者の身近さ、知識) などであった。

本報告では、複数回回答している人を除き、首都圏、京阪神地域に居住し、ゲイ・バイセクシュアル男性もしくはこれまでに男性との性交経験を有する男性を分析対象とした。

本報告では首都圏、阪神圏別に各ベニューでの回答の経年比較について報告する。首都圏では LT 計画、文化系サークル、体育会サークルの 3 つのベニュー別に 3 年間の結果の経年比較を示す。阪神圏については、回答者全体の経年比較、年齢層別の経年比較、また京都・神戸・姫路のゲイ向け商業施設利用者群と Plus+ 会場来場者を起点とした群の 2 群間の経年比較を示した。

データの集計および統計処理には SPSS11.0 (Windows) を用いた。

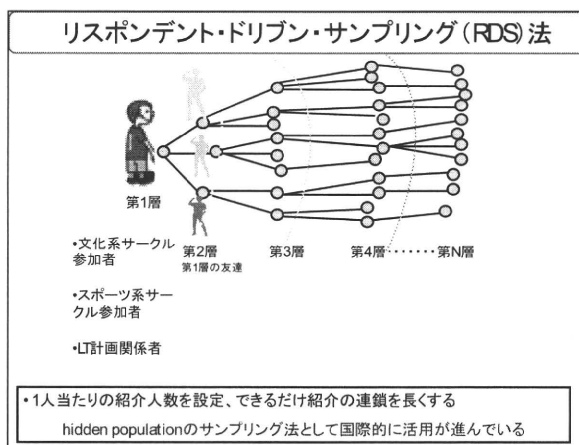


図 1. RDS 法

C. 研究結果

1) 回答者の属性

【首都圏】年齢層はいずれの年、群においても全体では20-30歳代で7割以上を占めており、居住地は東京都が最も多かった。

【阪神圏】PluS+会場で収集したデータは20歳代が約半数を占めているが、京都・神戸・姫路を起点とする群は30歳代以上のものが多かった。

2) 過去6か月に利用したエリアや施設等について

【首都圏】新宿・大久保がいずれの起点の群においても毎年最も多く、上野・浅草、新橋が続いていた。利用した施設はゲイバーが毎年8割以上の対象者が利用しており、ゲイナイト(クラブ)の利用についてはLT計画の群において利用が高かった。

【阪神圏】PluS+会場群では大阪キタのエリアを利用したものが85%を超えており、大阪ミナミが続いて多かった。京都・神戸・姫路群においても同様の傾向にあった。

3) 啓発資材の認知

【首都圏】本戦略研究にて開発した冊子 REAL についてはLT計画群において、「見た」「読んだ」と回答した割合が2008年において最も高く2009年、2010年も同様の傾向であった。REAL冊子の認知はいずれの群においても経年的に上昇していた。またHIVマップ、あんしん検査サーチ、REALロゴの認知も経年的な上昇がいずれの群においても確認された。

【阪神圏】初年度はSaL+の認知が全体で44%と最も高かったが、年度が進むにつれて戦略研究のロゴ画像、クリニック検査キャンペーン、ホームページの画像の認知が大幅に上昇した。

4) HIV抗体検査受検割合

【首都圏】生涯の検査受検経験についてはLT

計画、文化系サークルともに2008年度においても60-70%台でありベースラインとしても高い割合であり、経年的な明確な上昇は認められなかった。年度により異なるが、過去1年の受検経験割合はLT群において高い傾向が見られた。一番最近受検したHIV抗体検査機関としては、首都圏の保健所、南新宿検査・相談室を挙げるものがいずれの群においても多かった。

【阪神圏】

全体では生涯での受検経験割合は56.7%から65.0%、68.2%と推移し上昇していた。また年齢別に分析しても特に29歳以下の層で上昇が確認された(図2)。また40歳以上の群においても経年的に生涯受検経験の上昇が認められた。

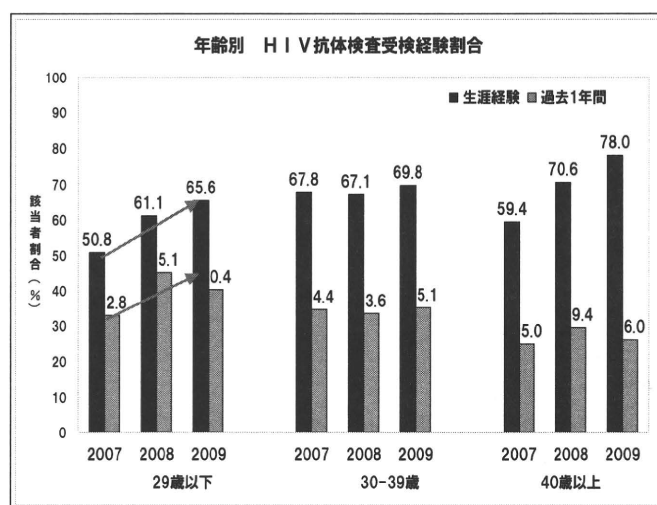


図2. 年齢階級別の年度別推移

5) 性行為経験とコンドーム使用行動

【首都圏】「過去6ヶ月間に男性とアナルセックスの経験がある」と回答した人はいずれの群においても65%に近い値であり、経年的な差は見られなかった。コンドーム使用状況について過去6ヶ月間のアナルセックス経験者を対象に相手の種類別(特定・その場限り)でみると、特定相手とのコンドーム常用割合は全体で44.5%(2008)、42.4%(2009)、その場限りの相手とのコンドーム常用割合は全体で66.0%(2008)、55.6%(2009)であった。

【阪神圏】過去6か月に男性とアナルセックスの経験があると回答した割合は年度により異なり69-77%の間を推移した。特定相手との常用割合は49.1% (2007) →47.3% (2008) →49.1% (2009)、その場限りの相手とは61.2 (2007) →64.2% (2008) →60.2% (2009) であり、大きな変動は見られなかった。

6) 陽性者の身近さ、対話経験

【首都圏】友達や知り合いに陽性者がいると回答した割合は2008年度のベースラインから2010年まで一貫してLT計画で最も高かった。経年的にみても陽性者がいると回答した割合はいずれの群でも上昇傾向が確認できた。過去6ヶ月間にHIVやエイズについて対話した経験は経年的に見ても一定の変化は見られなかった。

【阪神圏】友達や知り合いに陽性者がいると回答した割合は33.2% (2007) →44.2% (2008) →40.8% (2009) と推移し、いると思うと回答した人は13.0% (2007) →18.4% (2008) →21.2% (2009) と推移し全体では上昇の傾向が見られた。

D. 考察

2007年から2010年にかけて、首都圏、阪神圏においてゲイ向けサークル、サークルイベント、LT計画関係者、予防啓発イベント、商業施設利用者を対象に携帯電話によるRDS法を用いた質問紙調査を実施し、首都圏、阪神圏それぞれの第1層の起点別に回答者を群分けし、回答の推移を分析した。

首都圏においては、戦略研究において資材配布など啓発を行ってきたベニューから3年間連続で回答協力を得ることが可能となった。同一の回答者である保証がないため、経年的な比較の際の解釈に限界はあるが啓発普及の効果を測定する上でも有用なデータを収集した。検査行動については、首都圏では3年間で、全体としては明確なHIV抗体検査受検割合の上昇

は確認できなかった。今回の集計は対象者を紹介層別に分類はしていないが、直接に介入資材を受け取った第1層と、第1層から紹介を受けた第2層以降の層で経年比較を行うと、一部のベニューでは経年的な生涯受検経験の上昇がみられており、啓発の波及効果が示唆されている。今後は、啓発資材の接触の有無別に検査動向を明らかにするなど、より詳細な分析が必要となる。しかし、HIVマップ、REAL冊子、啓発ロゴなどはすべて一貫して、経年的にも各ベニューで認知や受け取り割合が上昇しており、コミュニティ内での情報普及は有効であったことが考えられる。予防行動については、全体では特定、その場限りの相手別に見ても著大な変動は見られなかった。HIV陽性者が身近にいると回答した割合については、経年的に見ると上昇が見られた。本戦略研究において、首都圏チームでは、陽性者の身近さを高めることは啓発資材の内容の考案の際にも重視してきており、一定の効果があつた可能性がある。

阪神圏では2007年から調査を実施し、2009年まで計3回、Plus+会場来場者、京都・神戸・姫路の商業施設利用者を起点とする調査を実施できた。全体としては、検査行動には伸びが見られ、29歳未満の層では、生涯の受検経験、過去1年の受検経験においても上昇が確認され、40歳以上の層においては生涯の受検経験の上昇が確認された。実際に戦略研究で開発したプログラムに接触したものの方において検査行動が進んでいるのかなど更なる検討が必要である。阪神圏では、クリニック検査キャンペーン関連の資材、戦略研究で開発した資材についても認知は明らかに上昇しており、啓発プログラムはコミュニティ内で浸透したことが考えられる。

今後はこれらの介入プログラムの接触濃度(資材を実際に中身まで見たのか、複数のプログラムに接触しているのかなど)別に検査行動や予防行動の関連を見ることも必要となる。

E. 結語

首都圏において、経年的に見ると HIV マップや冊子などの介入プログラムやロゴの認知は LT 計画、文化系サークル、体育会サークル群すべてにおいて浸透度は上昇していた。検査行動については経年的な上昇は認められなかった。本報告で用いられた調査結果は一部であり、今後、対象者を起点となる第 1 層、1 層から紹介を受けた 2 層以降の群に分けたうえで、介入の浸透度の比較を実施すること、介入の接触と

検査行動の関連を層別に見るなど詳細な分析を行う必要がある。

京阪神においても、クリニック検査キャンペーンの認知は経年的な上昇がみられ、生涯の検査受検行動についても一部で経年的な上昇が確認された。今後は介入の接触の程度と検査受検の関連を明らかにし、介入の効果評価に資する分析を進める必要がある。

F. 発表論文等 なし

表 1-1 対象者の属性と過去 6 か月の施設等の利用、プログラム認知(首都圏 2008 年)

		基点別						合計		カイ 2 乗 検定
		LT計画		文化系サークル		体育会サークル		合計		
		n=236	%	n=66	%	n=59	%	n=361	%	
年齢階級	24歳以下	34	14.4	11	16.7	5	8.5	50	13.9	0.059
	25-29歳	65	27.5	5	7.6	12	20.3	82	22.7	
	30-34歳	56	23.7	18	27.3	16	27.1	90	24.9	
	35-39歳	45	19.1	21	31.8	18	30.5	84	23.3	
	40歳以上	34	14.4	11	16.7	8	13.6	53	14.7	
	無回答	2	0.8	0	0.0	0	0.0	2	0.6	
合計		236	100.0	66	100.0	59	100.0	361	100.0	
居住地域	東京都	170	72.0	43	65.2	38	64.4	251	69.5	0.003
	神奈川県	23	9.7	13	19.7	17	28.8	53	14.7	
	埼玉県	17	7.2	6	9.1	2	3.4	25	6.9	
	千葉県	12	5.1	4	6.1	2	3.4	18	5.0	
	その他	14	5.9	0	0.0	0	0.0	14	3.9	
合計		236	100.0	66	100.0	59	100.0	361	100.0	
性的指向	ゲイ(同性愛者)	221	93.6	62	93.9	55	93.2	338	93.6	0.759
	バイセクシュアル(両性愛者)	12	5.1	4	6.1	4	6.8	20	5.5	
	その他、分からない	3	1.3	0	0.0	0	0.0	3	0.8	
合計		236	100.0	66	100.0	59	100.0	361	100.0	
過去6ヵ月間の利用エリア	新宿・大久保	195	82.6	50	75.8	45	76.3	290	80.3	0.320
	上野・浅草	61	25.8	19	28.8	18	30.5	98	27.1	
	新橋	41	17.4	11	16.7	14	23.7	66	18.3	
	渋谷・代々木	30	12.7	7	10.6	3	5.1	40	11.1	
	池袋	10	4.2	9	13.6	2	3.4	21	5.8	
	中野・阿佐ヶ谷・八王子	17	7.2	2	3.0	3	5.1	22	6.1	
	横浜	16	6.8	7	10.6	7	11.9	30	8.3	
	埼玉・千葉	8	3.4	1	1.5	0	0.0	9	2.5	
	その他	21	8.9	9	13.6	3	5.1	33	9.1	
	いずれも行っていない	23	9.7	6	9.1	3	5.1	32	8.9	
過去6ヶ月間の利用施設等	ゲイバー	197	83.5	57	86.4	54	91.5	308	85.3	
	ゲイナイト(クラブ)	136	57.6	15	22.7	11	18.6	162	44.9	
	ハッテン場(有料・野外)	105	44.5	34	51.5	30	50.8	169	46.8	
	ネット(掲示板・SNS)	192	81.4	51	77.3	39	66.1	282	78.1	
	ゲイサークル	38	16.1	40	60.6	20	33.9	98	27.1	
	ゲイの合コン	14	5.9	3	4.5	3	5.1	20	5.5	
	ゲイの乱バ	6	2.5	4	6.1	2	3.4	12	3.3	
	いずれも利用なし	7	3.0	0	0.0	1	1.7	8	2.2	
新宿2丁目のコミュニティセンターakta(アクタ)を知っていますか?	行ったことがある	169	71.6	21	31.8	9	15.3	199	55.1	<0.001
	聞いたことがある	41	17.4	23	34.8	20	33.9	84	23.3	
	初めて聞いた	25	10.6	21	31.8	30	50.8	76	21.1	
	無回答	1	0.4	1	1.5	0	0.0	2	0.6	
合計		236	100.0	66	100.0	59	100.0	361	100.0	
過去6ヶ月間に以下の表紙の冊子を見たり読んだりしたことがありますか?(REAL冊子)	見た	81	34.3	19	28.8	11	18.6	111	30.7	<0.001
	読んだ	90	38.1	14	21.2	8	13.6	112	31.0	
	見たことがない	65	27.5	33	50.0	40	67.8	138	38.2	
合計		236	100.0	66	100.0	59	100.0	361	100.0	

表 1-2 対象者の属性と過去 6 か月の施設等の利用、プログラム認知(首都圏 2009 年)

		起点別						合計		カイ2乗 検定
		LT計画 n=211		文化系サークル n=126		体育会サークル n=126		n=463		
		n	%	n	%	n	%	n	%	
年齢階級	24歳以下	23	10.9	21	16.7	18	14.3	62	13.4	0.008
	25-29歳	59	28.0	21	16.7	16	12.7	96	20.7	
	30-34歳	49	23.2	32	25.4	26	20.6	107	23.1	
	35-39歳	48	22.7	24	19.0	37	29.4	109	23.5	
	40歳以上	28	13.3	28	22.2	28	22.2	84	18.1	
	無回答	4	1.9			1	0.8	5	1.1	
合計		211	100.0	126	100.0	126	100.0	463	100.0	
居住地域	東京都	162	76.8	67	53.2	78	61.9	307	66.3	<0.001
	神奈川県	27	12.8	31	24.6	25	19.8	83	17.9	
	埼玉県			16	12.7	14	11.1	30	6.5	
	千葉県	16	7.6	10	7.9	3	2.4	29	6.3	
	その他	6	2.8	2	1.6	6	4.8	14	3.0	
合計		211	100.0	126	100.0	126	100.0	463	100.0	
性的指向	ゲイ(同性愛者)	197	93.4	117	92.9	115	91.3	429	92.7	0.771
	バイセクシュアル(両性愛者)	14	6.6	9	7.1	11	8.7	34	7.3	
合計		211	100.0	126	100.0	126	100.0	463	100.0	
過去6ヶ月間の利用エリア										
	新宿・大久保	181	85.8	108	85.7	75	59.5	364	78.6	
	上野・浅草	45	21.3	24	19.0	27	21.4	96	20.7	0.264
	新橋	35	16.6	31	24.6	29	23.0	95	20.5	0.068
	渋谷・代々木	31	14.7	10	7.9	10	7.9	51	11.0	0.039
	池袋	10	4.7	9	7.1	7	5.6	26	5.6	0.223
	中野・阿佐ヶ谷・八王子	21	10.0	7	5.6	9	7.1	37	8.0	0.131
	横浜	21	10.0	12	9.5	9	7.1	42	9.1	0.235
	埼玉・千葉	2	0.9	5	4.0	4	3.2	11	2.4	0.076
	その他	35	16.6	23	18.3	13	10.3	71	15.3	0.089
	いずれも行っていない	16	7.6	11	8.7	29	23.0	56	12.1	<0.001
過去6ヶ月間の利用施設等										
	ゲイバー	179	84.8	106	84.1	87	69.0	372	80.3	0.003
	ゲイナイト(クラブ)	125	59.2	31	24.6	25	19.8	181	39.1	<0.001
	ハッテン場(有料・野外)	105	49.8	61	48.4	55	43.7	221	47.7	0.442
	ゲイショップ	89	42.2	58	46.0	34	27.0	181	39.1	0.009
	ネット(掲示板・SNS)	159	75.4	103	81.7	82	65.1	344	74.3	0.022
	ゲイサークル	38	18.0	58	46.0	41	32.5	137	29.6	<0.001
	ゲイの合コン	14	6.6	7	5.6	7	5.6	28	6.0	0.574
	ゲイの乱パ	14	6.6	13	10.3	3	2.4	30	6.5	0.057
	いずれも利用なし	3	1.4	2	1.6	5	4.0	10	2.2	0.248
新宿2丁目のコミュニティセンターakta(アクタ)を知っていますか？										
	行ったことがある	151	71.6	38	30.2	15	11.9	204	44.1	<0.001
	聞いたことがある	32	15.2	51	40.5	48	38.1	131	28.3	
	初めて聞いた	28	13.3	37	29.4	63	50.0	128	27.6	
合計		211	100.0	126	100.0	126	100.0	463	100.0	
過去6ヶ月間に以下の表紙の冊子を見たり読んだりしたことがありますか？(REAL冊子)										
	見た	85	40.3	42	33.3	34	27.0	161	34.8	<0.001
	読んだ	81	38.4	44	34.9	21	16.7	146	31.5	
	見たことがない	45	21.3	40	31.7	71	56.3	156	33.7	
合計		211	100.0	126	100.0	126	100.0	463	100.0	
プログラム認知										
	HIVマップ(ウェブサイト)	120	56.9	57	45.2	48	38.1	225	48.6	0.013
	あんしんHIV検査サーチ(ウェブサイト)	71	33.6	22	17.5	34	27.0	127	27.4	0.026
	Living Together計画(ウェブサイト)	128	60.7	44	34.9	22	17.5	194	41.9	<0.001
	Living Together Lounge(イベント)	136	64.5	49	38.9	15	11.9	200	43.2	<0.001
	Living Together のど目糧(イベント)	109	51.7	24	19.0	5	4.0	138	29.8	<0.001
	デリヘルボーイズ	152	72.0	64	50.8	37	29.4	253	54.6	<0.001
	monthly akta(aktaのフリーペーパー)	125	59.2	34	27.0	19	15.1	178	38.4	<0.001
	HAVE A NICE SEX(冊子)	78	37.0	16	12.7	8	6.3	102	22.0	<0.001
	EASY!(冊子)	116	55.0	31	24.6	16	12.7	163	35.2	<0.001
	かながわレインボーセンター-SHIP	64	30.3	28	22.2	12	9.5	104	22.5	<0.001
	REALロゴ(画像)	142	67.3	62	49.2	44	34.9	248	53.6	<0.001

表 1-3 対象者の属性と過去 6 か月の施設等の利用、プログラム認知(首都圏 2010 年)

		起点別						合計		カイ2乗 検定
		LT計画 n=106		文化系サークル n=146		体育会サークル n=41		n=293		
		n	%	n	%	n	%	n	%	
年齢階級	10代	4	3.8	2	1.4	0	0.0	6	2.0	0.618
	20代	25	23.6	37	25.3	10	24.4	72	24.6	
	30代	45	42.5	62	42.5	16	39.0	123	42.0	
	40代	26	24.5	39	26.7	15	36.6	80	27.3	
	50代	5	4.7	6	4.1	0	0.0	11	3.8	
	60代以上	1	0.9	0	0.0	0	0.0	1	0.3	
合計		106	100.0	146	100.0	41	100.0	293	100.0	
居住地域	東京都	89	84.0	99	67.8	34	82.9	222	75.8	0.018
	神奈川県	16	15.1	37	25.3	5	12.2	58	19.8	
	千葉県	1	0.9	10	6.8	2	4.9	13	4.4	
合計		106	100.0	146	100.0	41	100.0	293	100.0	
性的指向	ゲイ (同性愛者)	94	88.7	137	93.8	39	95.1	270	92.2	0.517
	バイセクシュアル (両性愛者)	10	9.4	8	5.5	2	4.9	20	6.8	
	その他、分からない	2	1.9	1	0.7	0	0.0	3	1.0	
合計		106	100.0	146	100.0	41	100.0	293	100.0	
過去6ヶ月間の利用エリア										
	新宿・大久保	90	84.9	124	84.9	28	68.3	242	82.6	0.034
	上野・浅草	26	24.5	38	26.0	10	24.4	74	25.3	0.955
	新橋	15	14.2	37	25.3	12	29.3	64	21.8	0.049
	渋谷・代々木	18	17.0	11	7.5	5	12.2	34	11.6	0.069
	池袋	9	8.5	14	9.6	1	2.4	24	8.2	0.334
	中野・阿佐ヶ谷・八王子	11	10.4	12	8.2	3	7.3	26	8.9	0.780
	横浜	7	6.6	14	9.6	2	4.9	23	7.8	0.500
	埼玉・千葉	3	2.8	4	2.7	0	0.0	7	2.4	0.557
	その他	11	10.4	15	10.3	5	12.2	31	10.6	0.936
	いずれも行っていない	11	10.4	15	10.3	9	22.0	35	11.9	0.103
過去6ヶ月間の利用施設等										
	ゲイバー	83	78.3	113	77.4	29	70.7	225	76.8	0.603
	ゲイナイト (クラブ)	46	43.4	40	27.4	9	22.0	95	32.4	0.008
	サウナ系ハッテン場	32	30.2	38	26.0	7	17.1	77	26.3	0.268
	マンション・ビデオbox系ハッテン場 (ヤリ部屋)	32	30.2	41	28.1	9	22.0	82	28.0	0.597
	その他ハッテン場 (公園等)	15	14.2	22	15.1	2	4.9	39	13.3	0.225
	ゲイショップ	39	36.8	64	43.8	10	24.4	113	38.6	0.070
	ゲイ向けパソコン出会い系サイト	27	25.5	51	34.9	9	22.0	87	29.7	0.135
	ゲイ向け携帯出会い系サイト	38	35.8	51	34.9	8	19.5	97	33.1	0.135
	SNS (ミクシィ、HuGsなど)	76	71.7	108	74.0	20	48.8	204	69.6	0.007
	ゲイサークル	14	13.2	64	43.8	10	24.4	88	30.0	<0.001
	ゲイの合コン	2	1.9	7	4.8	0	0.0	9	3.1	0.196
	ゲイの乱パ	5	4.7	5	3.4	2	4.9	12	4.1	0.846
	いずれも利用なし	4	3.8	6	4.1	5	12.2	15	5.1	0.085
新宿2丁目のコミュニティセンターakta (アクタ) を知っていますか?										
	行ったことがある	77	72.6	67	45.9	9	22.0	153	52.2	0.000
	聞いたことがある	17	16.0	49	33.6	16	39.0	82	28.0	
	初めて聞いた	12	11.3	30	20.5	16	39.0	58	19.8	
合計		106	100.0	146	100.0	41	100.0	293	100.0	
過去6ヶ月間に以下の表紙の冊子を見たり読んだりしたことがありますか? (REAL冊子)										
	見た	47	44.3	55	37.7	12	29.3	114	38.9	0.023
	読んだ	34	32.1	48	32.9	8	19.5	90	30.7	
	見たことがない	25	23.6	43	29.5	21	51.2	89	30.4	
合計		106	100.0	146	100.0	41	100.0	293	100.0	
プログラム認知										
	HIVマップ (ウェブサイト)	71	67.0	80	54.8	20	48.8	171	58.4	0.121
	あんしんHIV検査サーチ (ウェブサイト)	54	50.9	53	36.3	10	24.4	117	39.9	0.016
	Living Together計画 (ウェブサイト)	69	65.1	50	34.2	11	26.8	130	44.4	<0.001
	Living Together Lounge (イベント)	72	67.9	59	40.4	11	26.8	142	48.5	<0.001
	Living Together のど自慢 (イベント)	59	55.7	35	24.0	7	17.1	101	34.5	<0.001
	テリヘルボーイズ (ゲイバーへのコンドーム配布活動)	87	82.1	91	62.3	14	34.1	192	65.5	<0.001
	monthlyakta (aktaのフリーペーパー)	69	65.1	65	44.5	9	22.0	143	48.8	<0.001
	HAVE A NICE SEX (冊子)	39	36.8	22	15.1	5	12.2	66	22.5	<0.001
	EASY! (冊子)	55	51.9	33	22.6	9	22.0	97	33.1	<0.001
	かながわレインボーセンターSHIP	42	39.6	45	30.8	8	19.5	95	32.4	0.101
	いずれもなし	6	5.7	17	11.6	14	34.1	37	12.6	<0.001

表 2-1 HIV 抗体検査受検経験と最近の検査場所、検査の利用のしやすさ(首都圏 2008 年)

	起点別								カイ2乗 検定	
	LT計画		文化系サークル		体育会サークル		合計			
	n=236		n=66		n=59		n=361			
	n	%	n	%	n	%	n	%		
これまでにHIV検査を受けたことがありますか？										
ある	178	75.4	52	78.8	32	54.2	262	72.6	0.002	
ない	58	24.6	14	21.2	27	45.8	99	27.4		
合計	236	100.0	66	100.0	59	100.0	361	100.0		
過去1年間にHIV検査を受けたことがありますか？										
受けた	79	33.5	19	28.8	20	33.9	118	32.7	0.021	
過去1年間には受けていない	83	35.2	29	43.9	11	18.6	123	34.1		
1年以上前に陽性を確認している	14	5.9	4	6.1	1	1.7	19	5.3		
答えたくない	2	0.8	0	0.0	0	0.0	2	0.6		
非該当	58	24.6	14	21.2	27	45.8	99	27.4		
合計	236	100.0	66	100.0	59	100.0	361	100.0		
一番最近の検査はどこで受けましたか？										
首都圏（東京、神奈川、埼玉、千葉）の保健所	61	25.8	10	15.2	18	30.5	89	24.7	0.004	
南新宿検査・相談室	58	24.6	22	33.3	4	6.8	84	23.3		
首都圏のクリニック/診療所	16	6.8	3	4.5	1	1.7	20	5.5		
首都圏の病院	17	7.2	9	13.6	5	8.5	31	8.6		
自宅/郵送検査	2	0.8	0	0.0	1	1.7	3	0.8		
その他	23	9.7	7	10.6	2	3.4	32	8.9		
無回答	1	0.4	1	1.5	1	1.7	3	0.8		
非該当	58	24.6	14	21.2	27	45.8	99	27.4		
合計	236	100.0	66	100.0	59	100.0	361	100.0		
あなたにとって、HIV検査は利用しやすいですか/利用しやすかったですか？										
そう思う	45	19.1	17	25.8	5	8.5	67	18.6	0.091	
まあそう思う	79	33.5	17	25.8	20	33.9	116	32.1		
あまりそう思わない	67	28.4	22	33.3	18	30.5	107	29.6		
思わない	17	7.2	5	7.6	3	5.1	25	6.9		
わからない	28	11.9	5	7.6	12	20.3	45	12.5		
無回答	0	0.0	0	0.0	1	1.7	1	0.3		
合計	236	100.0	66	100.0	59	100.0	361	100.0		

表 2-2 HIV 抗体検査受検経験と最近の検査場所、検査の利用のしやすさ(首都圏 2009 年)

	基点別						合計		カイ2乗 検定
	LT計画 n=211		文化系サークル n=126		体育会サークル n=126		n=463		
	n	%	n	%	n	%	n	%	
これまでHIV検査を受けたことがありますか？									
ある	165	78.2	87	69.0	84	66.7	336	72.6	0.042
ない	46	21.8	39	31.0	42	33.3	127	27.4	
合計	211	100.0	126	100.0	126	100.0	463	100.0	
過去1年間にHIV検査を受けたことがありますか？									
受けた	71	33.6	38	30.2	34	27.0	143	30.9	0.003
過去1年間には受けていない	67	31.8	29	23.0	47	37.3	143	30.9	
1年以上前に陽性を確認している	23	10.9	20	15.9	3	2.4	46	9.9	
答えたくない	3	1.4					3	0.6	
非該当	46	21.8	39	31.0	42	33.3	127	27.4	
無回答	1	0.5					1	0.2	
合計	211	100.0	126	100.0	126	100.0	463	100.0	
一番最近の検査はどこで受けましたか？									
首都圏（東京、神奈川、埼玉、千葉）の保健所	56	26.5	27	21.4	29	23.0	112	24.2	0.440
南新宿検査・相談室	34	16.1	22	17.5	23	18.3	79	17.1	
首都圏のクリニック/診療所	21	10.0	10	7.9	7	5.6	38	8.2	
首都圏の病院	26	12.3	11	8.7	11	8.7	48	10.4	
自宅/郵送検査			2	1.6	2	1.6	4	0.9	
その他	27	12.8	14	11.1	12	9.5	53	11.4	
非該当	46	21.8	39	31.0	42	33.3	127	27.4	
無回答	1	0.5	1	0.8			2	0.4	
合計	211	100.0	126	100.0	126	100.0	463	100.0	
あなたにとって、HIV検査は利用しやすいですか/利用しやすかったですか？									
そう思う	45	21.3	31	24.6	26	20.6	102	22.0	0.870
まあそう思う	72	34.1	37	29.4	45	35.7	154	33.3	
あまりそう思わない	62	29.4	33	26.2	29	23.0	124	26.8	
思わない	11	5.2	8	6.3	10	7.9	29	6.3	
わからない	20	9.5	15	11.9	15	11.9	50	10.8	
無回答	1	0.5	2	1.6	1	0.8	4	0.9	
合計	211	100.0	126	100.0	126	100.0	463	100.0	

表 2-3 HIV 抗体検査受検経験と最近の検査場所、検査の利用のしやすさ(首都圏 2010 年)

	起点別						合計		カイ2乗 検定
	LT計画 n=106		文化系サークル n=146		体育会サークル n=41		合計 n=293		
	n	%	n	%	n	%	n	%	
これまでにHIV検査を受けたことがありますか？									
ある	80	75.5	103	70.5	31	75.6	214	73.0	0.632
ない	26	24.5	43	29.5	10	24.4	79	27.0	
合計	106	100.0	146	100.0	41	100.0	293	100.0	
過去1年間にHIV検査を受けたことがありますか？									
受けた	26	32.1	42	40.0	12	38.7	80	36.9	0.922
過去1年には受けていない	40	49.4	46	43.8	15	48.4	101	46.5	
1年以上前に陽性を確認している	13	16.0	15	14.3	3	9.7	31	14.3	
答えたくない	2	2.5	2	1.9	1	3.2	5	2.3	
合計	81	100.0	105	100.0	31	100.0	217	100.0	
一番最近の検査はどこで受けましたか？									
首都圏（東京、神奈川、埼玉、千葉）の保健所	22	27.2	26	25.5	10	34.5	58	27.4	0.901
南新宿検査・相談室	20	24.7	26	25.5	10	34.5	56	26.4	
首都圏のクリニック/診療所	7	8.6	11	10.8	3	10.3	21	9.9	
首都圏の病院	15	18.5	16	15.7	2	6.9	33	15.6	
自宅/郵送検査	2	2.5	4	3.9	1	3.4	7	3.3	
その他	15	18.5	19	18.6	3	10.3	37	17.5	
合計	81	100.0	102	100.0	29	100.0	212	100.0	
あなたにとって、HIV検査は利用しやすいですか/利用しやすかったですか？									
そう思う	26	24.5	38	26.0	12	29.3	76	25.9	0.440
まあそう思う	31	29.2	51	34.9	10	24.4	92	31.4	
あまりそう思わない	28	26.4	35	24.0	9	22.0	72	24.6	
思わない	9	8.5	6	4.1	7	17.1	22	7.5	
わからない	11	10.4	15	10.3	3	7.3	29	9.9	
無回答	1	0.9	1	0.7	0	0.0	2	0.7	
合計	106	100.0	146	100.0	41	100.0	293	100.0	